

アワダチソウ グンバイ

学 名: *Corythucha marmorata* (Uhler)

発生作物: セイタカアワダチソウ



発生経過

平成17年8月中旬、高知市及び吾川郡内のセイタカアワダチソウで、本県で初めてアワダチソウグンバイの発生が確認されました。本虫は北米からの侵入害虫で、平成12年に兵庫県西宮市で初めて確認された後、近畿、中部、中国、四国地域へ拡大し、キク、カンショ、露地ナスなどで被害が報告されていますが、本県では今のところ被害は確認されていません。

形態及び生態、被害、対策

成虫は約3mmで、前翅の周縁部などに顕著な棘を列生し、前翅には多数の特徴的な不定形褐色斑がありますので、他のグンバイムシと容易に識別できます(写真3)。

幼虫は集団(写真4)、成虫は単独で加害している場合が多く、成虫で越冬することが確認されています。成虫は7月下旬と8月下旬、幼虫は8月上旬と下旬に発生ピークがあり、加害されると葉表には吸汁による白いかすり状の脱色斑点が生じ、密度が高くなると枯死することもあります。

他県の情報から、慣行防除を行っていれば被害はほとんど問題ないことがわかっています。



写真3:アワダチソウグンバイ成虫



写真4:アワダチソウグンバイ幼虫

イチジク ヒトリモドキ

学 名: *Lacides ficus* (Fabricius)

発生作物: イチジク



発生経過

平成17年9月、南国市大堀のイチジクで、本県ではこれまで未発生であった南方系鱗翅目害虫イチジクヒトリモドキによる食害被害が発生しました。本県への侵入時期などは不明ですが、その後の調査で平成16年頃、高知市でも発生していたことが確認されました。

形態及び生態

卵は淡黄色のまんじゅう型で、30~60個のかたまりとして葉裏に産み付けられます。幼虫は灰色がかった黒色で腹面は橙黄色、背には白く長い刺毛が生えており、葉や果皮を食害します(写真5、6)。蛹は土中の浅いところで土繭を作って越冬した後羽化します。成虫は橙黄色、黒色、白色の斑紋をもつ蛾で、夜間活動します(写真7)。

幼虫の寄主植物はイチジク、イヌビワ、オオイタビなどで、近年、中国及び四国地域でも被害が報告されています。



写真5:イチジクヒトリモドキの被害状況



写真6:イチジクヒトリモドキ幼虫



写真7:イチジクヒトリモドキ成虫

防 除 対 策

- 1 若齢幼虫が葉裏に群生する時期に寄生葉を取り除いて処分します。
- 2 イチジクのアザミウマ類に登録のあるアディオン乳剤やスカウトフロアブルで、同時防除が可能であるとの報告があります。